

## 「日本遺産（Japan Heritage）事業」の推進について（論点メモ）

### 論点1 日本遺産地域における効果的な整備とは何か。

#### <委員からの主なご意見>

- ・ 行政予算を充当するのが一層難しくなっていく中で、民間での運営がどう順調に育っていくかが重要である。
- ・ 日本遺産とは「説明・解説をするための事業、現地で写真を撮って終わり」ということではなく「価値を理解することが目的」の哲学的な事業ではないか。
- ・ 看板などから日本遺産のストーリーが伝わるのか、またリピートに繋がるのか検証が必要ではないか。
- ・ ARやQRコードを使ったガイドの仕組みをつくる際、インバウンド対応も考えると良い。

<参考> 「地域活性化計画等の改善について」（抜粋）

「別添資料」

#### 4 整備

地域内外の人々に日本遺産のストーリーを体験してもらう事業を行うために必要となる基盤を整備するため、来訪者の導線に合わせて、文化資源や景観・風景の整備、日本遺産センター等の拠点や構成文化財等における解説の整備、サブストーリーの抽出等を行う。

※サブストーリー：日本遺産のストーリーの一部について、より深く魅力を伝えるために派生させ詳細化したもの。

### 論点2 自立・自走とは何を指すのか、また、マネタイズをどう実現していくのか。

#### <委員からの主なご意見>

- ・ 観光協会等の民間による主導がなされている地域でも、行政の補填が多く民間での自立が難しい状態であり、自立はできていない。
- ・ 協議会は行政とその関連組織が中心であり、将来にわたって事業を担う民間企業等の参画が弱い。将来の事業自立のための収益性の高い事業創出の動きが明確になっていない。
- ・ 宿泊施設等の民間事業者と連携し、マネタイズの方法を探ることで、文化振興に繋げることができるのではないかと。地域において、どのような体制で展開するか、検討する必要がある。
- ・ 一部地域において、プロデューサーが確保できていない、その前段階の人材確保が不十分である。またプロデューサーがいないことから、マーケティング手法に基づくPDCAサイクルが回っていない。

<参考>「地域活性化計画等の改善について」（抜粋）

### 3. 地域活性化計画等に関し改善すべき事項

#### (3) 日本遺産の取組の自立・自走の考え方について

- まず短期的に目指すべき自立・自走は、地域内外の人々がストーリーを体験できる事業を事業実施主体が継続的に実施する仕組みを構築することである。その際、①当該事業の収益を継続する場合、②地域経済や住民生活への貢献を可視化することで自治体や事業者から支援を得て継続する場合、等の方法が考えられるが、どのような方法により継続するのか明確にすべきである。
- そのうえで、中長期的に目指す自立・自走は、地域内外の人々がストーリーを体験できる事業を、民間事業者が主体となって継続的に生み出す仕組みを構築することである。このため、協議会等には、文化関係者だけでなく、観光関係者（DMO等）や民間事業者が中心的な役割の担い手として参画すべきである。また、協議会の継続的な活動のための財源等の確保の仕組みを構築することも重要である。

## **論点3** シリアル型で理想的なあり方とは何か。連携についてどのような方策があるか。

### <委員からの主なご意見>

- ・ ストーリーをどれだけ体験できているか、シリアル型の各自治体がどれだけ相互に関連し合っテシナジーを発揮できているか、現状の見える化が求められる。
- ・ シリアル型として産地を超えたネットワークの醸成が価値を創出する仕組みを描いていくことが求められる。
- ・ 一部地域において、地域全体を牽引するプロデューサー的人材の不在、シリアル地域全体の編集の不備など大きな課題があると思う。
- ・ メリットやデメリットを検証しているか。認定自治体の中での温度差・実施事業差（質・量）などが顕在化していないか。

<参考>「地域活性化計画等の改善について」（抜粋）

### 3. 地域活性化計画等に関し改善すべき事項

#### (1) 地域活性化計画において取り組むべき事業について

- （略）地域活性化計画の中核として取り組むべき事業は、地域内外の人々がストーリーを体験できるようにする事業である。その際、日本遺産を活用するという手段自体が目的化することのないよう、ストーリーを体験する人の目線に立ち、どのようにストーリーを体験できるのか、その体験を通じてどのような価値を得ることができるのか、そのような体験のニーズがあるのか、といった仮説を事前に用意し、検証と改善を繰り返しながら事業に取り組むことが重要である<sup>3</sup>。
- （脚注3）シリアル型の場合はストーリーが複数の地域にまたがるため、ストーリーを体験する仕組みについて、地域間で認識を共有しつつ一体的に取り組む必要がある。